



第一回スタッフ会議

関東甲信越静地区子ども会ジュニア・リーダー研修会新潟大会が令和五年八月に国守妙高青少年自然の家にて開催されます。

この大会に向けて令和元年よりジュニア・リーダーを兼ねた役員で検査委員会を立ち上げて、話し合いを始めました。しかし、令和二年には「コロナウイルス感染症がふまり、その影響で、すべての活動が中止となり会議ができなくなりました。この間に、ジュニア・リーダーの卒業や役員の交代等もありました。

令和四年に入り、検査委員会（ジュニア・リーダーを兼ねた役員）で数回の会議を開き、計画案の作成・Ｔシャツやチラシの作成・大会の内容及び役割



第五十回 関東甲信越静地区子ども会ジュニア・リーダー研修会新潟大会に向けて
実行委員長 岡田 政枝

の検討を進めてきました。そして、次のようなことが決まりました。

- 「スローガン」
- 3UP (Hook UP・Four low UP・Make UP)
- 「サブタイトル」
- 「妙高の自然の中で学年を越えて友だちの輪を広げよう」

新潟大会に向けて、ジュニア・リーダーやユース・リーダーのメンバーを整え、令和五年二月二十六日(金)に実行委員会(スタッフ会議)を立ち上げました。そして、数回の会議を重ね、内容を絞り込み、六月中旬には事前研修会を行い、八月の大会に臨みます。

感染症の影響でリーダー・役員共に活動の場が少なくなるなど苦勞することも多々あるかと思いますが、これまでの体験や経歴を生かして、より良い大会になるように全員で 丸となり取り組みます。

参加される方々に妙高の自然の中で心地よく楽しんで友だちの輪を広げてい

ます。



スタッフの役割決め

ただけるように精一杯努力させていただきます。また、感染症対策をしっかり整えて素晴らしい入会になるように実行委員の皆様・全員の協力をよろしくご願いたします。

今後の予定

- 関プロ事務担当者会議(東京・全子連ビル)
四月十七日(月)
- 関プロJLスタッフ会議①(柏崎市民プラザ)
五月十四日(日)
- 県子連総会・研修会(上越市民プラザ)
五月三十一日(日)
- 全子連総会(東京・オリンピックセンター)
五月三十一日(火)
- 第一回理事会(新潟市東区プラザ)
六月四日(日)
- 県子連だより 第一四二号発行
六月九日(金)
- 関プロ総会(埼玉・ウエスタ川越)
六月十一日(日)
- 関プロJLスタッフ会議②(リハール(妙高自然の家))
六月十一日(日)
- 第一回関プロ推進研究会(東京・全子連ビル)
六月二十四日(土)
- 第二回関プロ推進研究会(東京・全子連ビル)
六月二十五日(日)



「社会全体で子どもを育む」を 合言葉に

上越教育事務所 社会教育課長 青山 範夫

令和元年度より策定された「第3次新潟県生涯学習推進プラン」は、「生涯にわたり活躍できる循環型の生涯学習社会を実現すること」を口指しています。上越教育事務所管内3市も同様に、生涯学習が活躍できる循環型生涯学習社会の構築に向けた取組を進めています。

管内の事業紹介

- ・「地域の子どもは地域で育てる」という観点で、花いっぱい運動やあいさつ運動を展開して、地域が主体的にその地域の教育活動を考え、学校と連携して教育活動を行う「青少年育成会議」（上越市）
 - ・市内の企業、団体等が一堂に集まり、地域中学生と交流をしながらキャリアについて考える「キャリアアフエステイバル」といのがわ（糸魚川市）
 - ・市内で人材が不足している保育職と介護職について、学生の将来に向けた就業を支援する「フカレント学院」（妙高市）
- また、管内の小中学校では全ての学校にコミュニケーションスクール（ICTCS）を導入し次のような活動を行っています。
- ・職員や生徒、保護者、CS委員等

に繰り返し「共生の具現化」を「職員と生徒と共に」目指していくことを伝えていきます。

「一口有片感」の育成を合言葉に、中学校区の未来をつくる子どもたちの学びを地域一体となり支えていくために、地域と学校共通のねらいを設定するよう支援しています。

地域住民が気兼ねなく学校に足を運べるよう、CSバス、と名札を玄関に設置する等、工夫を帯びCS活動の充実を促しています。地域学校協働本部の一員である子ども会が、これからの各種活動と積極的に関連することによって、子どもと地域の人々との繋がりが、社会全体で子どもを育む、持続可能な地域づくりにつながると期待しています。



全子連表彰を受賞して

「濁れる水の流れつつ澄む」県子連での日々

妙高市高柳子ども会育成会 林 るみ子

第五十五回全国子ども会育成中

大会議・研究大会において、個人表彰されたことは望外の喜びでした。これは今まで、私を支え、後押ししてくださった后任地の妙高山高柳子ども会育成会の皆様、新潟県子連の皆様がいてこそのものだと心より感謝しております。そして何よりも、私に子ども会活動の意義や方向性について目を醒かせてくれたのが、今は亡き平野 研氏（妙高市）です。平野さんは子ども達の主体性と未来に向かって成長する力を信じ、だからこそ、時に子ども達に自分のところと頭で決断することを求めました。単に遊んで楽しませるだけの子ども会活動ではありませんでした。これが私の子ども会活動の原点にもなり、これまで子ども会にかかわってくださることができました。

私の子どもはいわゆる「ゆとり世代」です。子ども達に様々な体験を通して、多様な生きる力を培ってほしいと思っていましたが短期終了しました。ならば、それを体得する場に子ども会をしようと考え、私はこれまで取り組

んできました。

「この数年は、自然の中での体験活動で育まれる非認知能力が子ども達の成長する過程で挫折やドロップアウトを回避するしなやかで粘り強い力になると考えてきました。私の子ども会活動の締め、五十五回大会記念講演「SDGsと子どもたちの未来」で、島原理さんが非認知能力に言及されたのを聞き、これからの子ども会活動の方向性に、新たな期待が持てることを確信できたのは幸いでした。

今後、様々な意見や考えを飛び交わせ、混沌の中からも力が強く、そして川幅たつぷりな本流となり、悠々と進んでいってください。



上越地区

クリスマス会にリーダーとして参加して

妙高市ジュニアリーダーズクラブ

中一 馬嶋 優妃

私は今回初めてリーダーとしてクリスマス会に参加し、多くの良い点や改善点をみつけることができました



例えば、会の組み立てを話し合う場面では、人数がそろわない中どう進めればいいのか、どんな活動をすれば楽しんでもらえるかなどを話し、まとめて準備をしました。

また、当日の会では、予想していた時間を過ぎてしまったり、短かったりとうまくいかないことも多くあり、もう少しこうすれば良かったなどが多くあったと自分の中でも思いました。

この活動をする中で、人がそろわないことの大変さや、当日になつてのことでの臨機応変さが必要だと感じました。

しかし、そんな中でも参加して

くれた子供が

「楽しかった」

「また来たい」

と言ってくれてとても嬉しかったし、次にやるときには今よりもっと楽しんでもらえるようにしたいと感じました。

このような活動を通して、会を組み立てることの大変さや先を見通して行動をすること、どんなことをしたらよくなるかでも考えられるかなどを、改めて考えられたし、クリスマス会以外の活動でも生かせることを多く学べた良い体験になりました。

この活動のおかげで、次の時にはどんな時間配分でどんなつなぎ方をすればいいのか、どうしたら参加者も自分達も楽しめるのかを考えられたし、誰かが一人にならないように自分から行動して、全員を楽しませられるような会をつくるにはどうしたらいいのかを考え、次につなげたいと思いました。その他の活動でも、この活動を生かしたいと思いました。



中越地区

ニジマス釣りイベント

加茂市下大谷育成会

会長 海津 諭

私は、新潟県加茂市の下大谷地区で、育成会の会長をしています。本稿では、下大谷地区の育成会の活動を紹介させていただきます。

加茂市下大谷地区は、山間部の集落で、六十軒弱の家で構成されています。令和四年度、同地区における小・中学生の数は十人です。

下大谷育成会では、毎年、様々な恒例行事を行っています。例えば、八月半ば頃には集落の集會場でバーベキューを行い、また、小正月には賽の神の行事を行っています。

その他、初夏頃と秋頃にそれぞれ1回ずつ、育成会の親子が、新潟県内で少し遠方に出かけるイベントを行っています。これまでの行き先は、水族館、遊園地、プール、ボウリング場などでした。

令和四年七月、この遠方に出かけるイベントとして、胎内市にある胎内フィッシングパークへ行きました。



イベント当日の朝、まずは、加茂市社会福祉協議会に事前にお願ひしていたマイクロボバスで、胎内フィッシングパークへ移動しました。到着したら、受付で釣竿、餌

チーズ、魚を入れるバケツを借りて、親子で釣りを始めます。胎内フィッシングパークは、魚の食いつきが良く、簡単に釣れる釣り堀として知られていて、この日もその通りの様子でした。子供たちは、親と協力しながら、体長三十センチほどのニジマスは何匹も釣り上げました。



釣りを楽しんだ後は、係の人の所に魚を持っていくと、内臓取り、串打ちと塩振りをしてくれて、炭火で焼く場所に串を刺してくれれます。四十分ほど焼くと、ニジマスの塩焼きの完成です。

完成したニジマスの塩焼きは、癖がなく、香りが良く、背骨以外は頭もかじって食べることが出来ます。ほどよい塩味が食欲を刺激して、一人が二、三匹ずつほども食べていました。魚を食べてのんびりした後、マイクロボバスで下大谷地区に戻って、イベント終了となりました。

このように、胎内フィッシングパークは、釣り道具を持参する必要がないこと、魚の食いつきが良く、初心者でも難なく釣れることから、子供と釣りを楽しむのに大変良い場所でした。本稿をご覧の皆様も、よろしければ育成会活動や家族での利用を検討してみてください。子供にとって素敵な思い出となると思います。

下越地区

夏祭りダンスリーダー

吉田法花堂 青空会

六年 田村 優士

ぼくの夏祭りの思い出は、ダンスリーダーになったことです。

最初に、お母さんから「ダンスリーダーお願いね。」と聞いた時はすごく嫌でした。「なんでぼくがダンスリーダーなんだよ...。」と思ったけど夏祭りで踊るダンスは学校で踊っていたダンスで学校でもリーダーをしていたから頑張ろうと思いました。

練習が始まると、リーダーの責任の重さに緊張しました。でも何度も何度も練習を重ねるうちに、みんなにダンスのアドバイスをできるようになってきて、楽しく踊れるようになっていました。

でも、実は、ぼくはひびを痛めていたのでダンスを踊るのが本当にすごくむずかしかったです。

それとは逆に、ダンスを最後まで踊りきった時の気持ちよさがすごく印象に残っています。それに、リーダーとしてみんながダンスを上手になっていく姿は本当にうれしかったです。

本番前の最後のリハーサルの際に、ひびが痛くなってしまい、本番でのダンスはひびをかばいながら、本当に苦しかったです。



番が終わった時は、「あつという間だったな〜。」と思ったし、この気持ちはリーダーだからこそ分かる気持ちだなと思いました。ぼくはダンスリーダーをやってすごく良かったと思います。
コロナで夏祭りが中止になっていましたが、今年は規模が縮小だったけどできてよかったです。子ども会で最後の参加になる夏祭りダンスリーダーができて、みんなと楽しくダンスを披露することができていい思い出になりました。来年はダンスを見る方になります。みんなが頑張っている姿を見たいなあと思っています。六年間、ありがとうございました。

佐渡地区

二年振りの花火大会

両津 さぎの子供会

代表 森下 真寿美

新型コロナウイルスが猛威をふるい、ステイホームを余儀なくされ、子ども会の行事も全て中止になっていましたが、今年度からは全国的に各種スポーツ大会やイベントも感染対策をしっかりと行い実施する流れになってきました。

さぎの子供会としても今年度は何か子どもたちのために行事を経験させてあげたいと考え、コロナウイルスが世間を騒がす前まで実施していた花火大会を計画しました。当日は暑い中ではありましたが、子どもたちや保護者にマスクの着用をお願いし、なるべく人と人との間隔をとることを意識してもらい行いました。まずは手持ち花火を楽しみました。ろうそくを立て、順番に花火に火をつけました。カラフルな炎に子どもたちは心躍らせ、楽しそうな笑い声が聞かれました。ささやかな花火大会ではありましたが、こんなに喜んでくれて計画して良かったと私もうれしくなりました。最後は打ち上げ花火です。手持ち花火の時とは少し様子が違い、一つ一つの花火が終わるまで、「この花火きれいだね」「す〜いね」「この花火お

もしろいね」などと花火に釘付けになり、終わるのを静かに見守っていました。そんな子どもたちの姿は、とても愛らしいものでした。

最近、子どもたちはもちろん保護者の方々の交流もありませんでした。同じ鷺野地区に住んでいながら、顔を合わす機会が少なくなってしまうのは残念なことだと思います。この花火大会で、子どもたちが少しでも元気を取り戻し、これから通常の子ども会の活動ができるようになることを願っています。

お知らせ

次回から市町村子連や単位子ども会の活動を紹介するコーナーを新設します。他団体との交流・伝統行事・特色ある活動などを県子連だよりで紹介いたします。応募希望は、四月三日(月)までお知らせください。

編集後記

◎今年、関フロJL研修会新潟大会が開催されます。ジュニア・リーダー、ユース・リーダーの皆さんの活躍を応援しましょう。
◎原稿をお寄せいただきました皆様に感謝申し上げます。(文責：板垣)

【編集発行】

一般社団法人
新潟県子ども会育成連合会
〒951-8131
新潟市中央区白山浦一三〇〇
電話 〇二五-三三〇五-一九八
FAX 〇二五-三三〇五-一九二